

2016J2

■順位表■第36節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	札幌	78p	+32	57	25	H●	A●
2	松本	71p	+26	53	27	H●	A△
3	C大阪	67p	+16	54	38	H●	A●
4	清水	66p	+36	69	33	H△	A●
5	岡山	63p	+19	51	32	A○	H●
6	京都	59p	+12	42	30	H●	A●
7	町田	52p	+5	44	39	A△	
8	横浜FC	49p	-2	41	43	A○	
9	愛媛	48p	0	35	35	A○	HO
10	山口	48p	-5	48	53	H●	A○
11	千葉	45p	-3	45	48	A●	H●
12	徳島	44p	-3	36	39	A○	H△
13	水戸	42p	0	38	38	HO	A●
14	長崎	42p	-9	36	45	H●	A●
15	群馬	41p	-7	44	51	A●	
16	山形	39p	-8	34	42	H●	A△
17	熊本	39p	-15	34	49	H●	
18	東京V	38p	-14	35	49	A△	
19	讃岐	35p	-17	37	54	A●	H△
20	岐阜	34p	-26	37	63	---	---
21	北九州	33p	-15	38	53	HO	
22	金沢	33p	-22	32	54	A○	H●

次回HomeGame

第39節 vs. ザスパクサツ群馬

11/3 (木・祝) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel: 058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけど..
心癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : 町田ゼルビア

2015 J3 23勝9分4敗 勝ち点78:準優勝

直近の対決と結果

2016/05/03
J2-11節@町田
町田 1-1 岐阜
レオナルドロシャ scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	町田ゼルビア
2016/10/16 J2-36節@西京極 京都 1-0 岐阜	2016/10/16 J2-36節@町田 町田 1-0 熊本
2016/10/08 J2-35節@金鳥スタ C大阪 3-2 岐阜	2016/10/08 J2-35節@アイスタ 清水 2-0 町田
2016/10/02 J2-34節@長良川 岐阜 0-5 岡山	2016/10/02 J2-34節@町田 町田 2-1 東京V

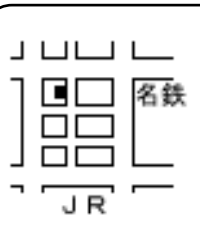
●6ヶ月ぶりのホーム戦勝利、そして今シーズン2度目の連勝で迎えた10/2(日)第34節・ホーム岡山戦。シーズン初の3連勝を目指して臨んだFC岐阜だったが、強敵・岡山に前半15分までに3失点するなど、再び守備面の弱さが露呈して0-5で惨敗。続く10/8(土)第35節・アウェイC大阪戦でも、3位・セレッソの攻撃を防ぎきれず後半15分で3失点。その後は立て続けに2得点して追いつきを見せたが、あと少し届かずに2-3での悔しい敗戦となった。そしてアウェイ連戦となる10/16(日)第36節・京都戦は、過去2戦の反省を活かして堅実な守備に徹していたが、最後の最後でPKを与えてしまい、残念な0-1での敗戦。これで2連勝の後に3連敗してしまったFC岐阜だが、順位は変わらず20位に踏み留まっている。しかし、この3試合で北九州が勝ち点5を、金沢が勝ち点4を積み上げたため、21位・北九州および22位・金沢との勝ち点差はわずかに1。残留争いが不安になるリーグ終盤の展開ではあるが、しかし、たとえ勝ち点差1でも順位が逆転された訳ではないし、まだ6試合が残っている。残念ながらFC岐阜がプレーオフに進出する可能性は消滅したが、形勢が大きく変化する可能性も残されている。今後も目の前の1試合に集中して、しっかりと勝ち点を積み重ねることが何よりも重要だ。

さて、今節の対戦相手はFC町田ゼルビア。J2初の降格制度が設けられた2012シーズンにJFLから昇格したものの、我々FC岐阜と残留争いを繰り広げた末に再びJFLに降格。その後、2014年からはJ3創設メンバーとしてリーグに参加して、2015年のJ2・J3入替戦で大分を倒して、悲願の、そして初となるJ2復帰を達成したチームだ。今シーズン序盤は5連勝を含む11試合無敗を達成するなど好調で、一時は首位にも立ったが現在は7位。9/28(水)に発表されたクラブライセンス判定で、2017年の町田はJ2ライセンスの交付にとどまり、J1昇格の可能性を失っているが、その後の3試合でも2勝1敗と、勝利へのモチベーションは落ちていない。岐阜にとっては難しい対戦相手となるだろう。

町田との通算対戦成績は、岐阜の1勝1分1敗2得点2失点と全くの互角だ。2012年シーズンはホーム戦を1-0で勝利し、アウェイでは0-1で敗れた。4年ぶりの対戦となった今シーズンのアウェイ5/3(火)第11節では、#30中島裕希に先制を許したが直後に#10レオナルド・ロシャの豪快なミドルで追いつき、その後は守りきって1-1のドロー。今節はホーム戦で勝利し、残留争いの中で貴重な勝ち点3を手にした。

その町田の要注意選手には、まず#30中島裕希を挙げたい。現在11得点、全試合に出場している身体能力の高いFWに、前回の対戦でも競り合いでボールを押し込まれている。守備面の脆さが課題となっている岐阜にとっては、まずは無失点で前半を折り返すことが試合のリズムを掴む上で必要だ。また、12得点で絶対的エースの#9鈴木孝司、18試合で11得点の#11中村祐也はともに負傷し欠場の見込みだが、2011~2013年に岐阜に在籍していた、#6李漢宰が町田のキャプテンとして我々の前に立ち上がるだろう。彼と共に戦った経験のある#17野垣内俊が累積警告で今節出場停止なのは残念だが、岐阜の選手たちは僕らの期待に応えて活躍してくれるだろう。

今シーズンも残り6試合、合計で540分。「まだ」なのか「もう」なのか、感じ方は人によって違ってくるだろうが、ここでしっかりと踏ん張って、最後までポジティブに選手たちの背中を押す声援と拍手を送り続けることが、勝利への最適解、僕らだけにできることではないだろうか。その気持ちに、選手たちも応えてくれるはずだ。(ささたく)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!
アドレスが変わりました
gidaidohri@gmail.com

【第34節】岐阜0-5岡山

●わかってたことだ。愛媛に勝ったのは「相手が83分以上も10人で戦うことになったから（それでも決勝点はアディショナルタイムのレオロシャの神CKだった）」で、山口に勝ったのは「相手が天皇杯で木曜に新潟での試合があって“中2日”という厳しいコンディションだったから（それでも3-0とリードしながら終了間際に2点返されての薄氷の勝利だった）」だ、ということ。だから「さあ、連勝の勢いで」1昇格争い真っ只中の岡山にぶつかるぞ！」なんてラッパを吹ける状況なんかじゃなかった。そして、岡山は「連勝してるんだ？ふん……で、それがどうかしたの？」と言わんばかりに、FC岐阜を顔料に使えるレベルにまで粉々にすりつぶしてくれた。観戦仲間と話していたのは、『練習内容』について。それも、シーズン開始当初あるいはそれ以前からの“積み重ね”という部分で。もちろん、ぼくは岡山の練習なんて見たことはない。でも、FC岐阜の行っている練習とはおそらく「思想そのもの」から違うのだろう、というのは試合を観て感じた。たとえば、「今日は自習（自主練習）」という状況を想像してみる。これはあくまでぼくの“想像”として読んでほしいのだけど、FC岐阜の前監督のラモス氏は「今日は自習ね！」としか言わない。一方、岡山の長澤監督は「今日は『これこれこういう状況になったらどう対応するか』をテーマに自習しなさい。レポートは明日の練習前に提出ね」。さて、どちらの練習方法がチームプレーの熟度が上がるだろう？書くまでもないことだ。今年のJ2で高い評価を得ている山口のサッカーと比較してみると、その違いもわかりやすい。山口は「相手からボールを奪ったらどう仕掛けてどこでフリーの選手を作るか」という攻撃のパターンをチーム練習で何種類も用意して練度を上げている（ように見える）。だから、相手ペナエリア付近では攻撃の選手が「オートマチック」に動いて崩しにかかる。しかし、岡山の攻撃に「オートマチック」はない。選手それぞれが“個”で相手の状況を見てその場で考えて判断し、その判断が選手間ですぐに共有されて表現される。FC岐阜のサッカーを見慣れているぼくには、「岡山の選手はテレパシーで会話して意思共有をしているんじゃないか？」とすら思ったものだ。ぼくが目にしたのは、「チームプレー」ではない、「スタンドプレーから生じるチームワーク」だった。選手の個々の能力で0-5ほどの差があるとは思えない。「チーム」として時間をかけてやってきたことの差が0-5というスコアで具現化した試合だった。きっと、岡山サポの皆さんは、J1は厳しいことを承知したうえで「たとえ1年で降格することになっても、『このサッカーで』J1でどこまでやれるか』を視たい」と思ってるんじゃないだろうか。そんな風に、岡山のことばかり考えていた90分だった。長澤監督の1年半とラモス氏の2年半の『密度』の差を思いながら。（吉田铸造）

●何というかね、昨季のね、大分戦。長良川でのアレがフラッシュバックしましたワ。なぜでしょうかね？

10分の間に三点とか、もう、何がどうしちゃったんですか？そんなにガツガツ来てるようには見えませんでしたよ？岡山は。逆に言えば、岡山はふだん通りにやっていたら、ウチが勝手にコケてくれた。そういうことですか？何といっても、先制された場面ですよ。ヨシナリがシュートの軌道を追えないくらい、ウチの守備陣が固まってる中で決められちゃいましたよね。アノ場面で誰かチェックに行っていましたか？何か見えない壁でもあるかのように、誰もが棒立ちだった。ゴール裏にいた自分の目にはそう映りました。でも、まだ1点です。前半に先制されるのは慣れてるでしょ？なのに、失点がリーグ・ワーストのセット・プレーで、またどフリーの選手を作られた挙句に押谷に決められるとか。3点目に至っては、何をかいわんや。アソコで手を使って倒したら、そりゃカード出るし、PKになるよね。ゴール裏の自分でも「あ、やっちゃったね。」って思いましたもんね。股又キされて、手を使って倒してカードもらったのPK献上。選手としては、これ以上ないくらいの屈辱でしょう。でも、あの位置であんなプレー、いや、反則はダメ。23番はきっちり反省してください。

と、コレで試合の趨勢は、ほぼ決まり。後半もガンバってくれたけど、途中出場の若いFWに2点を献上。やられる時は徹底的に、でしょうか。しかも、今季の最多失点タイ記録。シーズンも終盤のこの時期に。少しは持ち直してきた得失点差も、あつという間にリーグ最下位に転落。しかし、この時期に、終盤に入ってるこの時期にも関わらずこんな内容の試合を見なければならぬとはね。

もちろん、選手もこんな試合にたくしてしてるワケじゃない。それは十二分にわかってるけど、監督のカバーできる範囲を超えてるよね、この内容、この展開は。

まあ、この期に及んで得失点差云々は、もう言うまい。1点差でいいのでしぶとく勝ち点を拾っていきってくださいね。それにしても、ずいぶん差がついたな、岡山と。基本となる部分の揺るぎなさ、そこからの積み重ね。どちらのサッカーが魅力的だったか。ネガティブな思いばかりにハマってしまう試合だったが、終わった試合はどうしようもない。まだ、優位な立場にいるのはラッキーだ。次節以降に向けて修正をヨロシク！（ぐん、）

【第35節】C大阪3-2岐阜

●2分で2点取れるんなら、残り20分もあるんだから2点取って逆転するのなんかカンタンだろ？などとは、毛ほども思わないんですけどね。そりゃ、「3点差はキケンなスコア」とか、したり顔で言ってみたいですよ。しかし、そんなことはめったに起こらないのも、わきまえてはいるつもり。それだけに、先制点はもちろん、前半終了間際の2失点目が痛かったかな、と。せつかく、ガンバっているのに一瞬のスキを突かれる。さらに言えば、不要なファール。ほんのちよつとのコトが致命傷になってしまう。シーズン終盤のこんな時期に、こういうことを書かなきゃならないのは正直ツライ。長居ではずっと負けているんだけど、いつも1点差（たぶん、そのハズ。違ったらゴメンなさい。確認してません）。ホントもつたいないね。

全く手も足も出なかったワケじゃない。試合の中で流れが来る時間帯は必ずある。それ以外の耐える時間帯は凌ぎ、イーブンな場面では気を抜かない。いや、書くのはカンタンですが、中々に難しいことだとはわかってます。でも、それをやり切らないと結果はついてこないから。

ワケあって現地に参戦できなかったのが、返す返すも残念です。それでも、残留争いでは有利な立場にあります。焦ることはありません。力を合わせて、共に闘いましょう！（ぐん、）

●「立ち上がりの守備（失点）が課題」「セットプレーでの守備（失点）が課題」と言われ続けている今シーズン。あれ？今シーズンだけかしら？今までも守備はひどかったんだっけ？なんだか感覚が悪い方向に麻痺してきている気がします（溜息）。そりゃセレッソは3位と強い攻撃力に特徴のあるチームだし、無失点で終われるなんて甘くないのは重々判ってます。だけど…ウチの守備の問題点はどこにあるんだろう？そんなことを、岡山戦・セレッソ戦と失点が続くと、つつい考えてしまう訳です。本当の原因そして解決策は、分析担当を始めとするコーチ陣やフロントの皆さんにお任せするしかないので、素人目にみて不安なのは、やはりDF陣特にCBの人数不足と経験不足です。本職のCBが#4岡根直哉と#30田代雅也と#41甲斐健太郎…なのかな？その内2人はルーキー、一番試合経験がある岡根も、ボランチ起用を含めて100試合ちょっと。#2阿部正紀と#17野垣内俊と#35磐瀬剛はSB兼任だし…って書いてるだけで気持ちが落ち込んできました（苦笑）。この状況で、どうして夏にベテランCBを補強しなかった（できなかった？）んだろう…（溜息）。そんな事を、3失点している間に思ったりしていました。だけど、3失点後に#30田代雅也と#20鈴木潤を入れ替えたのが奏功したのか、セレッソの選手たちが油断した（僕らは3点獲っても決して油断しませんが（苦笑））のか、立て続けに2点を返して一気に盛り上がる岐阜サポ。ただ、ここで3点目が決まれば試合の流れは完全に引っこ返ったと思う

けれど、悔しいけれども流石セレッソ、ベテランDF #17 酒本憲幸を投入して、岐阜の勢いを沈静化させてしまう。あと1点が遠い、あるいは3失点の影響が大きすぎたと言うべきでしょうか…うまく試合を運べばセレッソ相手に勝ち点を持ち帰れる事ができたかもしれない、もったいない試合だった。(ささたく)

【第36節】京都 1-0 岐阜

●累積警告により #2 阿部正紀が出場停止。京都からレンタルしている #35 磐瀬剛は契約により出場不可。前節のスタメンDFを2名欠き、そうでなくても枚数不足な守備陣でどうやって戦うのか、というのは不安と共に興味深いところだった京都戦。さて、スタメン発表を見ると… #1 常澤聡の初出場はわかるとして、僕は当初 #17 野垣内俊がCBを務めるのかと思っていた。しかし試合が開始されると…ええっと、左SB専門職だと思っていた #20 鈴木潤がCB? しかも本職の #4 岡根直哉はベンチ? これはどういう吉田監督の意図なんだろう…でもセレッソ戦でも後半途中から鈴木潤をCBにしていたよなあ…などと不安になってしまったのだけれど、この守備陣形が意外にも(失礼!)機能する。しかし…何故なんだ…これがサッカーの「バランス」ってヤツなのか…(苦笑)。京都の拙攻にも助けられ、そして西京極の強風にも助けられ、無失点で前半を折り返す岐阜。しかし、攻撃は完全に #9 エヴァンドロ & #33 レオミネイロのブラジル人コンビ頼みという、ある意味では非常にいさぎよい戦術…それは個人的には構わないのだけれど、もう少し、ボールを奪った後の攻撃への切り替えというか、2人に向けて縦へ出す時の精度が悪くて、折角奪ったボールを危険な地帯で再び奪われてしまう場面、無理してファールを貰ってしまう場面が目についた。岐阜の問題点・弱点は、守備面の弱さもさることながら、中盤の連携にあるんじゃないか、そんなことを(既に何度目かではあるけれど)感じさせられた。

後半、岐阜が風下に立つと、修正してきた京都に押し込められる時間が長くなる。それでも、集中して粘り強く失点を許さない岐阜の守備陣。あと少し…アディショナルタイムに突入して、試合終了まであと少し…なのに、最後の最後でPK献上とは…(溜息)。「たれば」論でしかないのは判ってはいるが、しかし最後の交替が #36 瀧谷亮ではなくて #4 岡根直哉だったら…と、思うってしまう。枚数不足を補うために瀧谷がDF練習しているという噂は聞いていたし、ここで経験を積ませる意図も判らなくはないのだけれど…(溜息)。

最後の最後で掴みかけていた勝ち点1が、するりと逃げてしまった。しかし、いつまでも下を向いている時間はない。気持ちを切り替えて、次の試合に臨まなくては。あと6試合、選手たちには全力でたたかう姿を僕らに見せて欲しい。(ささたく)

●課題の守備は90分を無失点に抑えた。表示された4分のアディショナル・タイムも持ち堪えた。その対価として勝ち点1を手に入れるはずだった。だが、結果は0-1。選手もスタッフもそうだろうが、自分にとっては到底受け入れ難い一戦となってしまった。これもフットボールということなのか。いろいろと腑に落ちない点もあったこの試合。発表された時には3バックかと思ったスタメン。富士と潤はどう共存するのか、バンディエラはどの位置か…などと悩んでいたら、潤が左のCB? 昨季の特別指定の時期も含めて一度も見たことのないポジションのスタメンをこの時期、この状況で? 岡根の立場は? そう思ってハラハラしながら見てたのだが、試合が進むに連れて新たな驚き。それなりに形になってるよ。もちろん、ビルドアップとか攻撃参加とまではいかないものの、カバーとクリアが出来てる。思わず、仲間と「左CBよりやれてるんじゃない?」とハーフタイムでうなずきあったのはナイショの話。

ただ、瀧谷のCB。これはどうだったのか。スタメンだった潤はともかく、終盤、それもイーブンの状況で「守れ!」と指示されて(たぶん)の出場。「点を取ってこい!」と言われ

た方がやり易かったろうと思うのだが……。ここでも、岡根を起用しなかった理由がわからない。さらに、交替枠一枚残したままだったこと。時間を使う意味でも、そして勝ち点1を得るためにも使って然るべきだったと思うがどうだろう? 結果として、不慣れなポジションに就いた瀧谷のファールから決勝点を決められてしまった。(あのプレーがファールかどうか、ということには触れないでおく。)

もちろん、監督には監督の思惑があり、選手の起用、交替にはスタンドからは計り知れない理由があるとは思うのだ。ただ、出場した選手は全力を出し切った。危ない場面も多々あったが、カラダを投げ出し、泥くさくゴールを防いだ。その奮闘に報いる術はあったように思えてならない。奇策は一つまでではないのか? 今は開幕直後ではない。お試しをしている余裕などないハズなのだが……。

しかし、これも素人の推測の域を出ない話。済んだことはしかたがない。選手達には京都戦の90分間のようなカラダを張ったディフェンスを続けてもらいたい。ここからが正念場。共に、最後まで戦い抜いて結果をつかみ取ろう!(ぐん)

【ユース】Jユース杯、初戦敗退

●我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は今年G1リーグに参加しており、10/1(土)に第15節関商工高戦、10/8(土)に第16節中京高戦が有り、それぞれ2対0、3対0で勝利し、11勝4分1敗の勝点37にまで伸ばしました。但し首位に行く帝京大可児高がそのまま無敗を通して、今年のG1リーグでの帝京大可児高の優勝が決定しました。帝京大可児高の選手、関係者の皆さん、おめでとうございませう! 12月に予定されているプリンスリーグ参入戦では是非勝ち抜いて貰い、1年でプリンスリーグへ復帰をして下さい!!

さて、秋のカップ戦であるJユースカップも初戦のガンバ大阪ユースとの試合が10/10(祝)に有りました。ガンバ大阪ユースは高校世代の全国リーグであるプレミアWESTに参戦しており、第15節終了時点で10チーム中5位にいる強豪チームです。岐阜からも父兄やサポ、ユースOBが試合会場であるガンバ大阪の練習場へ大勢乗り込んだと聞いています。ただ試合は地力の差が出たのか前半を0対4で折り返し。後半は立て直しに成功していたとの観戦印象も聴きましたが、結果的には0対6での完封負け。今年もJユースカップで勝ち上がる事が出来ませんでした。残念無念。

今後については、G1リーグはサッカー選手権の岐阜県大会の為に暫くの間お休み中。G1リーグの残り2試合は11/19(土)の第17節県岐商高戦と11/26(土)の第18節各務原高戦が予定されています。

頑張れよ、応援しているからな! FORZA! FC岐阜ユース!! ※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。(シユナ)

10/16 現在の、J3 順位表。 (残り5試合)

自動昇格	1	栃木	51p +16	32	16	★保有
入替戦	2	大分	46p +17	37	20	★保有
	3	鹿児島	46p +10	32	22	
	4	長野	42p +9	28	19	★保有
	5	富山	41p +8	31	23	★保有
	6	秋田	40p +8	29	21	

●気になる鹿児島(2位以内になるとJ2の21位は自動残留になる)の残りの対戦相手ですが、A/相模原→H/琉球→A/藤枝→H/盛岡→A/長野、となっています。大分は、H/盛岡→A/秋田→H/G大阪U23→H/YS横浜→A/鳥取。一見すると、鹿児島よりはカード的な負荷が低いように感じます。『岐大通』ではFC岐阜のJ2残留が決まるまで、J3情報を掲載していきます。(編集人:吉田鑄造)

